

手術看護認定看護師

手術看護分野は、手術を受ける患者とその家族に対して、手術という侵襲的な治療の影響を最小限にするために、専門的知識や科学的根拠に基づいた看護を実践し、自らの実践を通して教育・指導・相談の役割を遂行することを職務としています。

【今までの取り組み】

1. 周術期患者のROM測定の導入と、それを活用した安全な手術体位確保の導入
2. 大血管手術における温風式加温装置を用いた新たな術中体温管理方法の導入
3. 手術体位別ケア基準の導入
4. 手術患者を対象とした術前オリエンテーション動画の作成と導入
5. 食道癌手術患者を対象とした多職種連携による周術期管理チームの発足と運用
6. 上記周術期管理チームの一員として食道癌手術患者への禁煙・感冒予防の指導
7. 手術や麻酔に関連した皮膚損傷予防への対策実施

【今後の取り組み】

1. 周術期管理チームの活動について、食道癌手術以外の手術への拡大
2. 手術室の医療材料在庫の適正管理による、医療材料費の削減

【その他院外活動】

1. 神奈川手術看護認定看護師会主催手術看護セミナーの企画・運営

守屋優一

取得年：2007年

後輩を指導する際に、根拠に基づいた専門的な技術や知識を教える重要性に気がつきました。そこで、より専門的な知識や技術を身につけたいと考え、認定看護師を目指しました。今後は周術期管理の充実を目指したいと思います。特に術前患者の身体的管理(禁煙指導など)の質を向上させたいと考えています。

井川拓

取得年：2014年

日々の業務に従事するなかで、手術室看護師として自分たちの実践している看護を究め、手術室全体で更なる専門性の確立を図りたいと考え、認定看護師を目指しました。手術決定から退院までを周術期と捉え、治療早期での手術看護介入(実践・指導・相談)を実現し、患者の安全・安楽向上に努めたいと考えています。